

2015年度 点検評価改善報告書

[委員会別業務評価]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	人事委員会			
大短委-2015-01			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条					
構 成	委員長	稲木光晴	副委員長	阿部弘	戸田由美	構成員数	
	委 員	小田日出子	稲木光晴	八木康夫	阿部弘		
		林裕二	加來卯子	戸田由美		7	
委員会の役割に関する事項（概要）	■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。 ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。						
年度重点項目 [事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	採用人事		適正な人材の確保（後任補充）		上程	教授会・別科会	
	昇任人事		公正な昇任人事の実施		上程	教授会・別科会	
	特別契約教員人事		適正な人材の確保（新規、更新）		上程	教授会・別科会	
年度重点項目 [事案]以外に委員会 が取り扱った項目[事案] に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	円滑な委員会運営						
	採用選考委員の選出						
	法令等への理解						
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	採用人事	決裁・意見・委託・上程の別		上程	教授会・別科会	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■本学の採用人事の多くは、後任補充人事である。 ■次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。					
	↓	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格審査、業績審査、面接、その他リサーチを実施した。 ■当該学科人事委員等においては、適正な人材を獲得するために学内外に対して必要な働きかけを行った。					
	↓	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■採用人事案件14件のうち、採用候補者を上程するに至ったのは8件である。 ■案件によっては、学科における人材獲得に向けた働きかけによって、年度末の厳しい時期にあって採用候補者を上程できたものもある。					
	↓	↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■公正な人事手続を前提とし、当該学科人事委員は、学科内において人材獲得に向けた対策を積極的に講じるなど、教員組織の観点から学科の教育研究体制の維持に努めることが求められる。 ■上記について、人事委員会としても必要な支援を行う。					
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会	
P	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。				
	↓	↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。 ■人事委員会において人事日程、申請に係る各種様式、申請資格者情報等を確認し、公正な人事を手続の面からも担保した。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申請期間及び選考期間の終了までの間、委員会は人事の透明性、公平性の観点からその責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会として根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えた。			結果の 評価 ■達成 □前 □維持 □停滞 □後退
A	↓	↓				
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。				
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。				

項目[事案]		特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会	
P	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会上程したい。				
	↓	↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新規の案件については、候補者から提出された個人調書及び教育研究業績書をもとに該当する職位について審査を行った。 ■更新の案件については、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■新規案件は4件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。個人調書及び教育研究業績書の審査により、適切な職位を案として確定させた。 ■更新案件は6件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。			結果の 評価 ■達成 □前 □維持 □停滞 □後退
A	↓	↓				
	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。				
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理を行い、理事会への上程期限を逸することが無いようにしたい。 ■各人事案件を同一日程で並行して行い、委員及び関係部局の負担を軽減したい。 ■各委員及び担当部局が時程管理について相互に理解し、スケジュール調整を円満に行いたい。 ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減したい。
		↓	
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学生昼休み時間帯を活用し、遅い時間に開催することを極力避けた。 ■人事案件ごとに日程表を作成し、各委員に配付した。 ■人事委員が採用選考委員と連絡調整を密にし、作業工程管理を徹底した。 ■回覧業績資料の複製部数を極力抑えた。
		↓	
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■採用面接を除き、委員会の大部分は日中に開催された。 ■各委員及び担当部局は、スケジュール調整に柔軟に対応した。 ■欠席委員の事前確認と了承、委員長による欠席委員への事後説明など、委員会外のコミュニケーションの円滑化により、情報共有は齟齬無くなされた。
		↓	
	A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■資料等作成（複製）に係るコストの軽減は引き続き検討を続ける。応募資格の有無を判断する審査から業績審査に移行する過程を、効率性の観点から検証する必要がある。 ■採用選考の当該学科人事委員による評価表取りまとめに際し、委員会としての統一的取扱いの検討は継続を要する。
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減については、応募資格の有無を判断する審査から業績審査への移行という手続的観点から効率性向上のための計画を立案したい。 ■採用、昇任、特別契約教員の3種の評価表様式について、それぞれの人事の特異性を加味した上で、各学部学科及び別科が共通して使用できるものを検討するための環境を整えたい。

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条			
	■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。 ■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。■日程上、厳しい人事案件においても委員と担当部局は採用選考委員及び学科との連絡を密にし、円滑な委員会運営に貢献した。				
	項目[事案]	採用選考委員の選出	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条			
	■公募する教育・研究分野等の要件に沿った委員を選出する過程で、人事案件の当事者となる学部学科・別科所属の教員のみで選考組織を組織することが困難な場合、他学部他学科所属の教員から委員を選出するなどして対応した。 ■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。				
	項目[事案]	法令等への理解	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第6条、第7条			
	■教員人事が、大学設置基準、本学院内部規則及び労働関係法令といった、法令等にも関わってくる問題であることについて、委員会として共通認識を図った。 ■このことは、教員及び助手候補者の「教育・研究」を審査するという役割とあわせて、本委員会の運営に対する基本的態度として重要である。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	教務 委員会			
大短委-2015-02			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課
委員会設置の根拠（規程等）							
構 成	委員長	伊藤直子	副委員長	塚本美紀	藤田稔子	構成員数	
	委 員	石井美紀代	嶋村美由紀	近江雅代	劉 明		
		竹内玉緒	谷崎太	橋本久美子		10	
委員会の役割に関する事項（概要）	■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。 1. 教育課程の編成及び授業に関する事項 2. 学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の修了に関する事項 3. 転学部・転学科に関する事項 4. 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 5. 行事日程に関する事項 6. その他教務に関する事項						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	退学防止のための学科における取り組み状況把握	各学科で退学者の要因分析をし、改善策を作成した。			決裁		
	適切な非常勤講師の委嘱を行うための対策について	各学科で非常勤講師の委嘱についての改善策を作成した。			決裁	大学評議会報告	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	学生の動向について	休学、退学、復学、除籍の審議			意見		
	他大学等における授業科目の履修等について	単位認定申請の審議			上程	教授会	
	非常勤講師候補者の委嘱について	非常勤講師候補者の委嘱についての審議			上程	非常勤講師候補者選考会議	
	学則・履修規程改正について	看護学科・福祉学科・栄養学科・英語科の教育課程改正についての審議			上程	教授会・大学評議会	
	卒業判定について	前期末・年度末の卒業判定についての審議			上程	教授会	
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	退学防止の取組み	決裁・意見・委託・上程の別		決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2014年度に休学・退学願の書式を変更し、休学・退学に至るまでの関わり（相談方法・回数・他の教員との連携）の記載により、詳しい要因分析をした。その要因分析を踏まえ、各学科で退学防止のための取り組みについて検討する。					
		↓	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■2014年度退学者数を累計し、理由別に集計したものを各学科へ配付した。それに基づき、2015年度退学防止のための取り組み（2014年度の学科の方針、要因分析、2015年度の学科の対応策）についてのフォーマットを作成し、各学科で検討したものを記載した。					
		↓	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■昨年度、退学願書をアドバイザーが相談方法や回数、他の教員との連携について記載する書式としたため、要因分析がスムーズにできるようになった。 ■各学科の退学者防止の対策が効果があるかどうかを毎年度確認できる様式を作成し、学修支援に役立てるシステムを構築したことは評価できる。					
		↓	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、退学者数及び理由別集計数を各学科で把握し、対策を検討することで、退学者を防止することに努める。					
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
	次年度見通し						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	適切な非常勤講師の委嘱を行うための対策について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	大学評議会で報告
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■適切な非常勤講師の委嘱を行うための対策として、「申合せ事項」を教務委員会で策定する。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■各学科で3つの対策（①授業外活動をさせないための対策②適切に授業運営がなされるための対策③適切な非常勤講師の委嘱を行うための対策）を検討し、委員会で「適切な非常勤講師を行うための対策について」の確認事項を作成した。 ■授業目的外活動をさせないためのガイドラインの作成についても検討した。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■各学科で「適切な非常勤講師を行うための対策」を検討することで、授業評価アンケート結果を把握することの重要性や非常勤講師とのコミュニケーションの必要性、委嘱の際の留意点等について共通認識を図ることができた。そのことにより、今後の非常勤講師の委嘱に関しては、共通理解のもとで実施できることになった。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■「適切な非常勤講師を行うための対策」の確認事項については、大学非常勤講師候補者選考規程の内規とすることも検討したが、当面「大学非常勤講師候補者選考規程に関する確認事項」とすることになった。非常勤講師候補者選考会議では、毎回この確認事項を踏まえ、運営していくが、内規とするかどうかは今後の検討課題とする。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■2016年度より授業運営がスムーズにいくよう、非常勤講師に向けた「教務関係マニュアル」を作成する。			
項目[事案]	大学共通教養科目の改正	決裁・意見・委託・上程の別	意見	各学科
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2018年度から大学共通教養科目の改正を行うため、「教務総合人間科学小委員会」（教務委員会の下部組織）のメンバーを決めて改正案の審議をする。審議された内容について、教務委員会で報告し、今後の方向性を確認する。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■教務委員会で教務部長が各学科1名ずつ委員を選出するよう依頼した。教務総合人間科学小委員会では、大学としての共通教養科目の指針を示し、5回の会議を開催した。その内容について、教務委員会で報告し、共通理解を図った。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■大学全体として総合人間科学のカリキュラムを検討していくシステムを構築できたことは評価できる。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■今後、他大学のカリキュラムを参考とし、各学科に、さらに具体的な提案ができるようにする。総合人間科学科目と専門教育科目との接続についても検討を進める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■第1回目の教務委員会で1年間の審議・検討事項についての確認をする。 ■中教審答申や認証評価において、大学の基盤として整えておかなくてはならないもの、検討すべき内容、そして実行しなければならない内容について取り組む。 ■2014年度に作成したDP、CP、カリキュラムマップ・ツリー、シラバスの整合性等を各学科で確認する。			
		↓				
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■1年間の審議・検討スケジュールに従い、滞りなく実施することができた。 ■教育課程の編成に関する全学的な方針の策定に関する事項について検討することを目的として、「教学マネジメント検討会」が発足した。			
		↓				
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■「教学マネジメント検討会」が発足されたことにより、各学科のカリキュラム改正が学科内だけでなく、第三者機関で確認できる体制が取れることになった。 ■教育課程の体系化を図るためのPDCAサイクルは、DP、CP、カリキュラムマップ・ツリー、シラバスの整合性の確認により、PDCまでが実施された。			
	↓					
	A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■カリキュラム改正にあたっては、学部・学科で作成したものを教務部と検討を重ね、教学マネジメント検討会で検討後に、教務委員会で審議することになった。今後は、この過程でよいかどうかの検証が必要になる。 ■教育課程の体系化を図るための改善について、検討する必要がある。			
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 今年度、「教学IR推進室」の設置されたので、IR機能による教育改善及び教育の質保証を図るための手段を検討する。また、教学IRについての研修に積極的に参加する必要がある。			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	大学 学則・履修規程改正について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会
	項目[事案]に係る規程上の根拠	学則第5条の2, 8 (7)			
	看護学科…運用上の不都合を解消するために履修規程の改正を行った。 福祉学科・栄養学科…COC+事業に関連した科目開設のため、学則及び履修規程の改正を行った。 英語学科…キャリア支援教育としてPBLに取り組むための科目開設のため、学則及び履修規程の改正を行った。				
	項目[事案]	自然災害等による休講及び定期試験の延期の取り扱いに関する申合せについて	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	これまで自然災害等による休講等の取り扱いに対し、組織的な仕組みがなかったため、学生の安全を守る観点から学生課が申合せの原案を作成した。その原案を審議し、教務委員会では原案どおり了承した。				
	項目[事案]	2015年度教育の質保証支援経費申請について	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	教育の質向上に向けた教育課程改正や今後の発展ができるプロジェクトに対し、一層の活性化を目的として、学長裁量経費が設けられた。各学科で教育課程の改正を行う際、他大学の調査や関係資料の購入等もあるので、応募を募ることを報告した。				
	項目[事案]	2016年度カリキュラムマップについて	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	2015年度に作成されたカリキュラムマップを検証し、修正をする。新カリキュラムについては、カリキュラムマップを作成する。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	学生委員会			
大短委-2015-03	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、学生委員会規程第1条				
構 成	委員長	八尋春海	副委員長	八木康夫	篠木賢一	構成員数
	委 員	松下智美	上村眞生	阿部弘	木沢誠名	
		齊藤育子	岸名英海			9

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料の減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、学生相談室に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。
------------------	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	改訂「学生生活に関する実態調査」の実施	全学科・全学年対象に12月実施	決裁	
	オフィスアワー掲出の徹底	学生への掲示徹底と掲示場所の統一	決裁	
	特別奨学生の更新と選考	学業不振対策の徹底・強化	意見	学長

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	一般奨学生の募集・選考	募集要項作成と選考	意見	学長
	自然災害時の授業等の取り扱い	申合せ制定(判断基準と各課役割分担の明確化)	上程	大学評議会
	学生懲戒事案と処分の実施	調査委員会設置と事実調査及び審議	報告	学長
	オリエンテーション日程の策定	オリエンテーションの充実と実施	決裁	
	学生相談室カウンセラーの委嘱	カウンセラーの選考	上程	大学評議会

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	改訂「学生生活に関する実態調査」の実施	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■入学前のバックグラウンド、生活時間、学習成果、満足度、キャリア・海外留学志向、就職状況等、在学期間を網羅する設問構成とし、本学学生の全体像の把握に努める。 ■D Pに基づく学習成果の獲得状況を把握し、教育の質保証・向上の取組みに活用する。				
	↓	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学長から各学科長に対し、全学規模への調査拡充に伴い、学科主導型の実施体制への移行をお願いした。 ■集計のほか、本学の特色や学生の傾向等に関する分析を専門業者に委託した。				過程の 評価 ■順 調 □遅 延 □未実施
	↓	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■各学科の回収率は、看護91.6%、福祉92.5%、栄養70.6%、英語85.5%、観光文化93.9%、生活創造100.0%、保育95.9%と栄養以外は例年以上の回収率をマークした。 ■設問項目を2倍以上に増やし、集計と分析を専門業者に委託したことにより、学生生活の実態をより細かく分析できた。				結果の 評価 □達 成 ■前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	↓	↓				
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 専門的、体系的な分析結果を追及するための、クロス集計の定着化。				
	次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し 特になし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	オフィスアワー掲出の徹底	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 全教員(非常勤講師を含む)のオフィスアワーを学生に周知させることにより、学生が授業に関する質問や様々な相談を研究室を訪問してスムーズにできるようにする。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか オフィスアワーについては、学生委員を通して各学科所定の掲示板に掲示し、学生に周知させた。また、本学公式ホームページに公表した（学外者には閲覧制限）。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 統制された掲示であった。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度はオフィスアワーについて、公式ホームページによる一般公開を予定している。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			
項目[事案]	特別奨学生を更新と選考	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 特別奨学生となっている在 student と入学希望者が、スポーツと学業の両立をはかるような態度を、この機会に身に付ける。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 特別奨学生となっている在 student と入学希望者に対して、該当のサークルの顧問と所属学科の教員が、スポーツと学業の両立について、GPAを具体的に挙げてその重要性を伝える。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 特別奨学生に対して、担当の顧問も学生が所属する学科の教員もこれまで以上に指導が行き届いた。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今年度と同様の形式が望ましい。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 学生委員会において、審議が形式的にならないようにする。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 審議事項について、問題となりうるポイントを整理し関連する資料を調査して、会議の時に、委員長が審議事項の背景、ポイント、参考となる事項などを説明して、論点を絞って議論する。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 議論が協道にそれることなく、充実した意見交換ができた。			結果の 評価 ■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 同様のやり方が望ましい。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	学生相談室カウンセラーの委嘱	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	九州大学大学院を通してのカウンセラーの確保が困難になったため、今後は福岡県臨床心理士会経由での募集という方法に変更になる。この方法の場合には、委嘱後のカウンセラー同志の情報共有などの機会を意識的に設けるようにしなければならないと思われる。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	就職				委員会
大短委-2015-04			担当部局等	部局等	学生部	課	就職課	
委員会設置の根拠（規程等）		就職委員会規定						
構 成	委員長	八 尋 春海	副委員長	久保 由紀子	植村 和彦	構成員数		
	委 員	八 尋 春海	新木 眞理子	納戸 美佐子	久保 由紀子			
		横溝 紳一郎 <td>木沢 誠名</td> <td>谷崎 太</td> <td>植村 和彦</td> <th rowspan="2">9</th>	木沢 誠名	谷崎 太	植村 和彦	9		
		姫野 隆行 <td></td> <td></td> <td></td>						

	■学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。					
委員会の役割に関する事項（概要）						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	就職・採用活動時期の変更への対応		就職・採用時期変更についての告知			
	卒業生アンケート調査		就職先の事業所にアンケート調査依頼			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	進路決定状況についての報告		2015年3月卒業生の進路決定状況報告			
	インターンシップについての報告		2015年度夏季インターンシップ実施報告			
	内定状況について報告		2015年度卒業予定者の内定状況報告			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		就職・採用活動時期の変更への対応	決裁・意見・委託・上程の別		
	P	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 就職・採用活動時期が2年連続で変更になったのを受けて、2016年度卒業予定の大学3年生及び短期大学部1年生に向けた就職支援のあり方について教職員に周知する。			
		↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか 文部科学省から通知された採用選考活動の開始時期変更についての文書を委員会で配布説明し、就職委員を通じて各学科の教員への周知を行った。			
		↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各就職委員の協力により、学内での周知が徹底し、目的は達成した。			
		↓				
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 採用選考スケジュールについて昨年度との相違を把握して、2017年3月卒業予定者に向けて適切な情報を提供する。			
		次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	卒業生アンケート調査	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 卒業生が就職した事業所に対して、卒業生の勤務状況や能力についてのアンケート調査を行う。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 就職課でアンケート様式を作成し、3部門会議(学生、教務、入試)で合議の後、アンケート依頼及び集計等の実務は全て就職課が行った。			
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 回収率は、大学45.6%、短期大学部62.6%であった。また、集計結果について就職委員へ配付し、学内LANで教職員に周知した。			
↓	↓			成 進 持 滞 退
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 自由記述欄に記載されている本学卒業生の状況について、各学科に情報提供をすべきこと、大学として対応すべきことを系統的に考える必要がある。			
次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し 回収率を上げるための方策を検討する。			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓			成 進 持 滞 退
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 就職課で把握している就職内定状況を定期的に報告することで、各学科が学生の動向を把握し、また就職環境を理解していただく。
	↓		↓
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 就職課が学生の内定状況を収集し、内定率、就職先、業界、職種、勤務地等を作表したものを就職委員へ配付、説明した。
	↓		↓
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各学科の就職委員が学生の動向や内定率を把握し、各学科へフィードバックされ、就職課と教員が連携した就職指導に繋がった。その一方で本年度は内定辞退者が目立ち、今後の課題となった。
	↓		↓
	A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 内定辞退者のトラブルなどに対し、学科ならびに就職課においての就職指導のあり方などを協議する必要がある。
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	大学宗教委員会					
大短委-2015-05			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課		
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、大学宗教委員会規程第1条							
構 成	委員長	古川敬康	副委員長	神崎明坤		東彩子		構成員数	
	委 員	浅野嘉延	柳澤伸一	相良かおる		齊藤育子			
									7

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	チャペル・特別行事等の企画・検討・運営		チャペル礼拝等講師の選定、学生の宗教指導		決裁		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	ネパール大地震被災者支援募金		募金活動の企画・検討・実施		決裁		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		チャペル・特別行事等の企画・検討・運営	決裁・意見・委託・上程の別		決裁	
	P	計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく本学の教育の中で、特に重要な意味をもっているチャペル礼拝（ミッションデー・クリスマス礼拝等の特別行事を含む）の内容を企画・検討し、学生と教職員にキリスト教の真理と福音に接する機会を設ける。				
	↓						
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■大学短期大学部では1、2年生全員出席制である。1年生のみ全員出席制である大学チャペルに全学生と全教職員が参加可能となるように、大講義室2か所に中継放送を実施している。 ■講師には学生の人間性を涵養し、視野を広げることのできる人物を招き、その工夫の一環として学科推薦の講師選定枠を設け、内容の充実を図っている。				
	↓						
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■出席制となっている学年の出席率は良く、年4回の調査からすると、出席した学生はキリスト教の愛の精神を享受することができた。しかし、大学2年生以上の出席は増えなかった。■大学では、出席者全員にチャペル応答カードを記入させ、奨励に対する学生の感想や質問への回答を次週のチャペルプログラムに掲載しており、学生の理解を深めることに繋がっている。■大学のチャペル礼拝では、入学時から退出に際し前列から順次退場することを守った。				
	↓						
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■中継教室への大学2年生以上の出席者を増やすには、チャペル出席について、大学・大学短期大学部の方針に基づいて、その意義と必要性をアドバイザーやゼミ担当教員を通してなど、学生に繰り返し喚起し呼び掛けることが肝要である。■賛美や奨励に学生が興味を持ち集中力を持続する力を一層持てるように礼拝の充実を目指し、讃美歌や講師の選定、冷暖房、音響、椅子の間隔等にも配慮し評価検討を続ける。■キリスト教センター事務室と学生課との連携によりチャペル礼拝は行われているが、キリスト教教育の一層の充実のためには、学生に対する全教職員（特に宗教委員会委員）の指導と協力が必要である。				
	次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。				

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画					
↓	↓				
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
D 実施					
↓	↓				
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓				
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

過程の
評価

☐順調
☐遅延
☐未実施

結果の
評価

☐達成
☐前進
☐維持
☐停滞
☐後退

過程の
評価

☐順調
☐遅延
☐未実施

結果の
評価

☐達成
☐前進
☐維持
☐停滞
☐後退

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペル計画を講じた。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長に内諾を得て、宗教委員会で意見を聴取し、承認を行った。			
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■計画された内容どおりチャペルは実施された。			
	↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■讃美歌や奨励に学生が興味を持ち、集中力を持続する力を一層持てるように讃美歌や講師選定についての検討を続け、チャペル礼拝の充実を目指す。				
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。				

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	ネパール大地震被災者支援募金	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■ネパール大地震被災者支援募金を企画、検討し、キリスト教センターとともに2週間にわたる学内募金と学生・教職員ボランティアによる街頭募金を6月20日(土)にJR小倉駅南口で実施した。集まった募金のうち、学内募金は北九州YMCA、街頭募金は西日本新聞民生事業団経由で日本赤十字社へそれぞれ寄付した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	研究紀要				委員会
大短委-2015-06			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		紀要規程第4条、研究紀要委員会規程						
構 成	委員長	命婦恭子	副委員長	甲斐達男	木沢誠名	構成員数		
	委 員	前田由紀子	荒木 剛	甲斐達男	木沢誠名			
		命婦恭子	西川 忍			6		

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	「投稿論文チェックリスト」の作成	「チェックリスト」による確認作業の効率化		決済	
	提出原稿体裁の統一	体裁統一による原稿様式等の整備		決済	
	外部機関への発送について	より安価な業者への変更		決済	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	「投稿論文チェックリスト」の作成	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■毎年提出される原稿のうち、記載が必須とされている欄外見出しなどの記載漏れが頻繁に見受けられ、その都度執筆者に注意を促している。今後執筆者自身の確認とチェック体制の整備のため、執筆者自身が提出前にチェックする「投稿論文チェックリスト」を作成することとした。			
	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■「チェックリスト」は次年度適用を目処として今年度委員会で作成することとした。主な学会のチェックリストを参考にして本学の「紀要規程」「紀要執筆申合せ」とすり合わせて作成した。			
	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■次年度からの適用となるため評価しがたいが、記載漏れ等の確認が簡略になり執筆者の意識向上にも繋がると考えられる。			
	↓				
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■「投稿論文チェックリスト」適用後、使用実態を見て改善を行う。				
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し なし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	提出原稿体裁の統一	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「紀要執筆申合せ」に記載されている内容が現状と合致しておらず、提出される原稿の体裁が統一されていなかったため、確認作業において混乱が生じていた。一律に記載内容と記載ページを指定して体裁を統一することとした。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■次年度適用を目処として、「投稿論文チェックリスト」と合わせて今年度委員会で作成することとした。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■次年度からの適用となるため評価しがたいが、提出後の確認作業が効率化されると考えられる。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■使用実態を見て随時改善を行う。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし			
項目[事案]	外部機関への発送について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■紀要約350部の外部機関への送付については、会計課からより安価な業者へ変更することを提案されていた。会計課、総務課の了解を得て、女学院一括発送を利用することとした。			
↓				過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■過年度の経費確認と価格の比較を行い、会計課長と図書課長による相談のうえ、担当者が総務課へ依頼方法等の確認を行った。			■順調 □遅延 □未実施
↓				結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■業者変更により経費節減となった。さらに支払い業務が簡略化された。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■外部機関への発送数は毎年20部程度の減少傾向にあるが、今後もさらに安価な送付方法を模索する。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vol. 20」の発行を目標とし、第2回の委員会において編集スケジュールを作成し、これに沿って発行までの業務を行った。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■紀要原稿の募集、編集、発行及び他大学への送付を編集スケジュールに沿って行った。			
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■提出原稿の確認作業においてミスが発生した。■前年度は、校正において誤字脱字や表現の誤り以外の修正が多く行われ、それによって編集に遅れが生じることが問題となった。今年度は注意喚起が功を成し、大幅な修正が行われることはなかったが、予定していた日程での発行はできなかった。			
↓						
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■「投稿論文チェックリスト」や提出原稿体裁の統一により確認作業を効率化する。■編集スケジュール通りに発行できるように、スケジュールの見直しとあわせて執筆者への締め切り厳守の注意喚起のための工夫を行う。■査読者への査読依頼が学科によっては適切でなく、査読候補者と行き違いが生じた。次年度は研究紀要委員会で意識の統一を図り、適切な査読依頼を行う。				
		次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■査読、ネイティブ・チェックの外部依頼について検討を行う。 ■紀要の公開について、2016年12月に終了するCiNii上での公開に替わる共同リポジトリへの参加の準備をする。 ■事務処理手順の見直しを行う。			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	公開講座 委員会			
大短委-2015-07	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課
委員会設置の根拠（規程等）		公開講座委員会規程				
構 成	委員長	岡田和敏	副委員長	L. D. ウールブライト	加來卯子	構成員数
	委 員	岡田和敏	L. D. ウールブライト	加來卯子	高橋甲枝	
		青木るみ子	命婦恭子			6

委員会の役割に関する事項（概要）	■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。								
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別				
	公開講座の開催		シニアサマーカレッジの開催 (北九州市社会福祉協議会との委託契約)		決裁	本部事務局長			
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別				
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		公開講座の開催		決裁・意見・委託・上程の別		決裁	本部事務局長	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座を開催したい。							
		↓							
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■社会福祉法人北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、北九州市立年長者研修大学校周望学舎の主催のもと本学が共催し、シニアサマーカレッジを開催した。 ■シニアサマーカレッジは、北九州市内在住若しくは市内に勤務している55歳以上の方を対象とする講座で、本学専任教員が講師を務めた。							過程の 評価
		↓							
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■受講者は47名。 ■本学各学科及び別科の専門性を活かした講義・実習ほか、安川電機八幡事業所への社会見学も実施するなど、多彩なプログラムが展開された。 ■シニアサマーカレッジの円滑な運営のために担当部局はその役割を果たした。							結果の 評価
		↓							
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■本学が有する教育資源を最大限活用し、毎年実施されるシニアサマーカレッジが変化に富むものであるよう努める。 ■受講生アンケート結果における要望・意見等に応えることができるよう、委員会として今後一層、各学科・別科と連携を図る。							達成 前 維持 停滞 後退
		↓							
	年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■公開講座の各種プログラムがリピーターである受講生にとって新鮮なものとなるよう、講座担当講師の選出及び講座形態（講義、演習、実習、見学等）に関しての共通認識が得られるよう留意する。						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■シニアサマーカレッジの開催による公開講座の実施に際し、各委員をとおして各学科・別科との連携を図り、本学の教育資源を有効に活用したい。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■シニアサマーカレッジ企画・実施した。 ■各委員は、毎年のプログラム内容を勘案しながら所属教員に講師を依頼した。 ■担当部局は、シニアサマーカレッジの開催に伴う渉外及び学内連絡調整を行った。 ■シニアサマーカレッジ受講生アンケートの結果を検証した。			過程の 評価
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■委員会は、シニアサマーカレッジ開催に係る審議を遺漏なく行い、大学学則第55条及び短期大学部学則第51条を事業として体现させた。			結果の 評価
↓						
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提とした効率的・効果的な委員会運営を進める。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。				
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	教職課程 委員会			
大短委-2015-08	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	教務部	課	教務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院短期大学部会議規則第39条、教職課程委員会規程				
構 成	委員長	一期崎 直美	副委員長	横溝 紳一郎	阿南 寿美子	構成員数
	委 員	伊藤 直子	杉谷 修一	吉田 あや子	手嶋 英津子	
		橋本 久美子				8

委員会の役割に関する事項（概要）	1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 2. その他教職課程に関する事項				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	教育情報の公表について		教職課程の教育情報の公表について		決裁
	教育実習生の健康管理について		感染症の予防接種について		意見
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	教職課程履修者の選抜方法について		福祉学科の教職課程履修者の選抜方法について		意見
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	教職課程の教育情報の公表について	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令が平成27年4月1日から施行された。その改正省令により、認定課程を有する大学は、教員養成の状況についての情報公開が義務化された。そのため、本学でも対応すべく、各学科の教員養成の状況について取りまとめ、本学公式ウェブサイトに掲載する。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昨年度検討した教育情報の公表項目を踏まえ、今年度は、その公表項目を①教員養成に対する理念②取得できる免許状の一覧③教員の紹介④教員養成に係るカリキュラム、シラバス⑥教員免許取得状況及び就職状況⑦教員養成に係る教育の質向上のための取り組みとし、各学科で公表項目を作成した。それを本学公式ウェブサイトに掲載した。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■教育職員免許法施行規則の改正省令に対し、早急に対応して滞りなく実施することができた。また、昨年度「教職課程履修の手引き」を作成していたため、公表項目の一部が既に作成されていたものがあったことも早急に対応できた要因だったと思われる。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■教職課程の教育情報の公表項目については、科目担当者の変更やカリキュラム改正等もあるため、毎年度確認し、変更する。			
	↓				
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■教職課程の教育情報の公表項目は、他大学等の状況も踏まえ、修正等について検討する。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	感染症の予防接種について	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教育実習生を感染症から守ると共に、実習先の生徒をも守る必要があるため、本学の予防接種の状況を把握する。さらに、他大学での状況も参考とし、本学の方針を検討する。			
↓	↓			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■本学の予防接種の状況を把握し、保健室から教育実習生の感染症の予防についての資料を作成してもらい、審議の検討資料とした。 ■意見交換を行い、予防接種の実施は、費用面や接種後のトラブル対応等を考えると大学として強制することはできないということがわかった。			
↓	↓			結果の 評価 □達成 ■前 □維持 □停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■教育実習生に対する健康管理について検討することにより、各学科の状況を把握し、共通理解を図ることができた。			
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■大学として予防接種をどこまで実施できるのかは、本委員会では決定できないため、今後は問題を整理したうえで大学としての方針案の作成を検討する。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■大学の方針に準じて検討が必要である。			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
↓	↓			過程の 評価 □順調 □遅延 □未実施
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
↓	↓			結果の 評価 □達成 ■前 □維持 □停滞 □後退
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「教職課程履修の手引き」の活用について確認し、内容を検討する。 ■福祉学科教職課程の人数制限について検討する。 ■教員採用試験の状況を把握する。	
		↓		過程の 評価
	D	実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■「教職課程履修の手引き」の活用については、今年度初めに作成されたため、教員側でリエンション以外の活用についてできていない部分もあることがわかった。 ■福祉学科教職課程の人数制限の時期を変更することを承認した。 ■各学科の教員採用試験の状況を報告した。	☐ 順 調 ☒ 遅 延 ☐ 未実施
		↓		結果の 評価
	C	評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■リエンションで「教職課程履修の手引き」を活用ができたことは、評価点とする。 ■福祉学科教職課程の人数制限についての検討時期が遅れたため、キャンパスライフの記載が間に合わなかった。 ■昨年に引き続き、今年も教員採用試験の合格者がいたことは、評価できる。	☐ 達 成 ☐ 前 進 ☒ 維 持 ☐ 停 滞 ☐ 後 退
		↓		
A	改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■「教職課程履修の手引き」をさらに有効活用できるよう、内容について、検討が必要である。 ■福祉学科では、コース名を養護教諭コースとしているため、人数制限の妥当性について、継続して学科での検討が必要である。 ■教員採用試験の合格者を継続的に出せるような対策についての検討が必要である。		
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■「教職課程履修の手引き」の利用について、学生の利用状況を通して学科毎に検討し、改善していく必要がある。 ■教員の質の保証につながる教職課程の人数制限について、今後も検討する必要がある。 ■教員採用試験の取組みについて、全学的な取組みについても検討する必要がある。		

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	福岡県大学・短大等教育実習・介護等体験連絡協議会	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■今年度開催の福岡県大学・短大等教育実習・介護等体験連絡協議会の当番校として、会議資料作成や会議進行ための準備をした。会議は、23大学、2短期大学、1教員養成所の合計56名が参加し、第一部は、委員候補者の選考及び協議会規約の改正等が行われ、第二部は、「教育現場での情報リスク」についての講演が実施され、滞りなく終了した。				
	項目[事案]	九州地区大学教職課程研究連絡協議会	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■今年度、九州地区大学教職課程研究連絡協議会（九教協）の運営委員として参加協力してきた。運営委員会においては、今年度、全国私立大学教職課程研究連絡協議会での分科会及び九教協での研究活動の企画・実施の充実に向けて、九教協における組織的・継続的な研究活動を行う必要性について議論され、今後も検討されていく予定である。また、来年度は、本学が九教協の会計監査担当としての役割を担うことになっている。				
	項目[事案]	教員採用試験対策について	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■教員採用試験では、今年度、英語学科・看護学科・福祉学科で昨年度に引き続き教員採用試験合格者がでている。今後、学科での対応を共通理解し、他学科と協働した対策について検討していく必要がある。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策				委員会
大短委-2015-09			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程第5条						
構 成	委員長	南里宏樹	副委員長	神崎明坤	脇信明	構成員数		
	委 員	新木真理子	荒木剛	L. D. ウールブライト	齊藤育子			
		八尋春海	岸名英海			9		

委員会の役割に関する事項（概要）	■キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパス・ハラスメントに関する事項について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	ハラスメント防止にかかる研修等の実施	相談員等講習会とハラスメント防止セミナーの実施		決裁	学長
	ハラスメント防止にかかる啓発活動	ハラスメントに関するパンフレット等の作成		承認	委員会
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	ハラスメント防止の研修等の実施	決裁・意見・委託・上程の別	決 済	
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学生・教職員が個人として尊重され、快適な学習、教育、研究及び就労環境の確保を図ることができるよう、ハラスメントの発生を防止するとともに、ハラスメントに起因する問題が生じた場合、適切に対応する。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■キャンパス・ハラスメント相談員等講習会を、2015年度のキャンパス・ハラスメント相談員とキャンパス・ハラスメント防止・対策委員会委員を対象に、2015年3月26日に実施した（講師：本学福祉学科准教授 木村茂喜氏）。 ■全学の教職員を対象に、「ハラスメントの現状と予防策について」というテーマでハラスメント防止セミナーを開催した（講師：九州大学ハラスメント相談室相談員・臨床心理士および本学学生相談室カウンセラー 細野広美氏）。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■本学教職員のキャンパス・ハラスメントに対する意識を高め、理解を深めることにつながった。			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■キャンパス・ハラスメントに関する正しい共通認識を持ち、大学における安全で健全な修学環境、職場環境づくりを目指して、上記のような講習会・防止セミナーを定期的の実施したい。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	ハラスメント防止の啓発活動	決裁・意見・委託・上程の別	承認	委員会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学生・教職員が個人として尊重され、快適な学習、教育、研究及び就労環境の確保を図ることができるよう、ハラスメントの発生を防止するとともに、ハラスメントに起因する問題が生じた場合、適切に対応する。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新入生には、キャンパス・ハラスメントについてのパンフレットとハラスメント相談員一覧を配付し、オリエンテーション時に説明を行った。 ■ハラスメント相談員一覧を全学生向けに大学掲示板と大学ホームページに公開した。 ■キャンパス・ハラスメントについてのパンフレットを新任教職員及び非常勤講師に配付した。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■学生および教職員のキャンパス・ハラスメントに対する理解を深めることにつながった。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■キャンパス・ハラスメントのパンフレットについては、現実と照らし合わせて見直しを行っていく。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
↓					
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
↓					
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

■達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

過程の
評価

□順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	国際交流委員会			
大短委-2015-10			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「国際交流委員会規程」第1条					
構 成	委員長	L. D. ウールブライト	副委員長	野井未加	笠 修彰	構成員数	
	委 員	L. D. ウールブライト	野井未加	笠 修彰	小野正子		
		坂巻路可	林裕二	八尋春海	岸名英海	8	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国人留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項について審議する。			
------------------	---	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	該当なし			

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	交換留学プログラムの実施	中国協定校から各1名の受入れ		
	T E F L 研修生の受入れ	英国協定校ウィンチェスター大学から5名受入れ		

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]				
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
		↓	↓		
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			結果の 評価
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■主に人文学部の国際交流プログラム実施先として協定関係にない大学等が多く選出され、協定校の存在とその恩恵が有効活用されていない。 ■姉妹校・協定校との交流実績（回数、内容等）を総点検し、教育課程の国際交流プログラム計画をもとに整理・開拓を行う。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		過程の 評価 ☐ 順調 ☐ 遅延 ☒ 未実施
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■協定関係のほとんどが大学間協定であるにも拘らず、人文学部以外はグローバル化への対応や国際化に未着手。		結果の 評価 ☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☒ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓		
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生の派遣先として信頼関係を前提とした協定校を選ぶことは危機管理のうえでも基本原則。 ■学士課程教育に大学の国際化が避けられない今、全学的な意識改革が必要ではないか。			
次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会が取り扱った項目「 事例」のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目「事例」に係る規程上の根拠				
	該当なし				
	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目「事例」に係る規程上の根拠				
	項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目「事例」に係る規程上の根拠				
項目「事例」		決裁・意見・委託・上程の別			
項目「事例」に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称		学生募集委員会		
大短委-2015-11	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	入試部	課	入試課
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、学生募集委員会規程				
構 成	委員長	目野郁子	副委員長	高橋幸夫	阿南寿美子	構成員数
	委 員	小野正子	布花原明子	今村浩司	文屋典子	
		天本理恵	境田靖子	横溝紳一郎	大谷浩	
		神崎明坤	穴田和子	谷崎太	加來卯子	
		脇信明				
委員会の役割に関する事項（概要）	■学生募集に関する事項について審議する。					
年度重点項目 [事 案] に関する事項	項目[事 案]	当該項目[事 案] の概要			決裁・意見・委託・上程の別	
	入試説明会	高等学校教員対象の大学・入試概要説明			決 済	
	高校訪問	高校進路指導部訪問による情報収集・提供			決 済	
	オープンキャンパス（OC）	高校生・保護者向けの大学生生活・授業体験			決 済	
年度重点項目 [事 案] 以外に 委員会が取り 扱った項目[事 案] に関する事項	項目[事 案]	当該項目[事 案] の概要			決裁・意見・委託・上程の別	
	模擬講義への出講	高等学校に出向く形式の大学講義の実施				
	学科ブログの運営	公式ウェブサイトへリンクするブログの更新				
	学生スタッフの推薦	OCで協力してもらう学生スタッフの選出				
	学科独自の募集企画	学科特性を重視した募集活動の実施				
年度重点項目 [事 案] の計画/ 実施/評価に 関する事項	項目[事 案]	入試説明会	決裁・意見・委託・上程の別		決 済	
	P 計 画	当該項目[事 案] によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校教員を対象に大学概要と次年度学生募集概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもってもらい入学試験志願者増につなごう。				
		↓				
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■6月中旬から下旬にかけ、北九州市（本学）、福岡市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、山口市の7会場で開催した。 ■各会場に学生募集委員、入試課・就職課職員が出向き、教育内容と入試概要をパワーポイントと印刷物を用いて説明、また地区別の進路・就職状況を報告した。その後質疑応答を行った。また各地域で就職している卒業生をゲストスピーカーとして招いた。 ■本学会場では学内見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設に案内した。				
	D 実 施	↓				
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■参加高校数は75校で前年度に比べ5校減だった。 ■参加高校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が59名（15.2%）減少、大学短期大学部は12名（12.9%）増加し、合わせて47名（9.8%）の減少となった。 ■前年度、志願者数が大きく減少した大学短期大学部については、カリキュラム改正と指定校推薦特典制度の導入により推薦入学試験では志願者数は回復した。				
		↓				
	C 評 価	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■高校教員（生徒）が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような配布物（ポイントが明確、目立つ、見やすい、理解しやすい）を提供する。 ■卒業生ゲストスピーカーの招聘は、本学の教育、社会につながる卒後の状況を高校教員に伝える上で有効な手段と考えられる。また、就職課による地区別進路・就職状況報告も好評で、いずれもアンケート結果からも良い評価が得られているため次年度も継続する。				
		↓				
		改善(A)の実施				
次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■入学試験志願者増を目指すために上記改善案を実施し、入試説明会の内容について検討する。					

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	高校訪問	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■高等学校進路指導部を訪問し、本学の入試・募集に関する情報を提供するとともに、高校側の情報を収集するなど、本学と高校との関係をより緊密にすることで入学試験志願者増をはかりたい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■学生募集委員を主とした学科教員と入試課職員が志願者の多い50校を重点校としてこれを中心に訪問した。 ■大学概要及び入試概要を説明し、当該高等学校出身者の在学状況・卒業後の進路状況を報告した。また進学支援に資する本学の取り組みなどの情報を提供した。 ■短大部のカリキュラム改正と指定校推薦特典制度による学費支援策を説明した。あわせて短大部リーフレットを作製し配布した。 ■高校側から進学動向等の情報を収集し、本学への志願を薦めていただく。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■訪問校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が77名(13.2%)減少、大学短期大学部は17名(14.8%)増加し、合わせて60名(8.6%)の減少となった。 ■大学では本学の特徴等の情報が生徒に十分伝わらなかったためか、志願者数が減少した。また、高校訪問の時期・回数などにも問題があったと思われる。一方、大学短期大学部では各種取り組みを評価していただき、志願者数を伸ばすことができた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■次年度も重点校を中心に訪問を行う。 ■高校進路指導部や教員と、より良好な関係を気づくために高校訪問を行なう担当者を決める。また、高校の特性により訪問の時期・回数など検討する。高校との関係ができた上で、適宜、本学の学科の教員につなぐ。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■高校訪問の実施方策を上記改善案に従い行なう。			
	項目[事案]	オープンキャンパス	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学生生活の体験（模擬授業や学食利用）を通して、学科の教育内容や本学の様子を高校生に理解してもらい、入学試験志願者を確保したい。 ■近年、特に進学意思決定に影響のある保護者の参加を促し、本学への進学を薦めてもらう。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■7月から9月にかけて3回、全学的に開催した。学科教員・学生、入試部・学生部職員が高校生に対し、直接大学の特長をアピールした。 ■地理が不安な生徒も参加できるよう、最寄りのJR4駅（小倉、黒崎、折尾、下関）から送迎バスを運行した。 ■同伴する保護者を対象にした保護者説明会も行なった。 ■参加者増に向け、これまでに接触のあった高校生にダイレクトメールを送付した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■参加者数は1,108名で、前年度に比べ50名(4.7%)増加した。低学年の参加者も昨年よりも増加している。 ■参加者の増加に伴い、参加者からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学は5名(2.1%)減少したが、大学助産別科は同数、大学短期大学部が35名(44.3%)増加し、合わせて30名(9.0%)の増加となった。 ■保護者向けの説明会には前年度に比べ30名(65.2%)増の76名の保護者が参加し、学費や学生生活支援、卒業後の進路支援について説明を行い、理解いただいた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■リピーターへの配慮に加え、増加傾向にある低学年の参加者に対する学科の模擬授業の内容や方法などを工夫する。 ■保護者向けの説明会は、次年度も継続し実施する。			
	次年度見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従いOCを実施する。また、OCにかわる学生募集の新たな取り組みについても検討を行なう。			

委員会 の 運 営 ・ 通 常 の 審 議 経 過 等 に 係 る 計 画 / 実 施 / 評 価 に 関 する 事 項	P 計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 4月～6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■ 議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。				
	↓	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■ 学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間において次回委員会を開催している。 ■ 審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。			過程の 評価 ■ 順 調 □ 遅 延 □ 未実施	
	↓	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 学科で審議・検討された結果は、次の委員会開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。			結果の 評価 □ 達 成 □ 前 進 ■ 維 持 □ 停 滞 □ 後 退	
	↓	↓				
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。					
	次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■ 当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。				
委員会 が 取 り 扱 っ た 項 目 [事 案] の う ち 特 に 状 況 等 の 記 載 を 要 する 事 項	項目[事案]	学科独自の募集企画		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠		学生募集委員会規程第2条			
	■ 大学パンフレットに掲載していない取り組みや、より詳しく内容を紹介する必要がある学科が独自のリーフレットを作製し、高校生に配布している。 ■ リーフレットを作製しない学科では、入試課に相談のうえ、作製費用を学科独自の募集企画に充当することができる。 ■ ゼミを地域活動に連携させている学科では、在学生の教育の成果を発表する場として学外の地域活動を高校生に体験させる取り組みを実施している。					
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	教育経費予算配分				委員会
大短委-2015-12			担当部局等	部局等	事務局	課	会計課	
委員会設置の根拠（規程等）		教育経費予算配分委員会規程						
構 成	委員長	文屋典子	副委員長	マルコム・スワンソン	東 彩子		構成員数	
	委 員	梶原江美	文屋典子	南里宏樹	マルコム・ロス・スワンソン			
		八尋春海	谷崎 太	東 彩子				
7								

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する報酬謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について、審議する。
------------------	--

年度重点項目 [事業]に関する 事項	項目[事業]	当該項目[事業]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算	予算申請、執行について	決裁	
	前年度の実績報告	実績額について	決裁	
	次年度の暫定予算	次年度の5月1日現在にて決定（確定）	決裁	

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案]に 関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	人文学部の特別経費の予算管理	予算申請から実績の報告までの管理	決裁	

項目[事案]		当年度の確定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決済		
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。				
	↓	↓				
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか 規程、細則に添って、予算を超過することなく執行した。				過程の 評価 ■順 調 □遅 延 □未実施
	↓	↓				
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算計画通りの執行についての評価は達成に値する。				結果の 評価 ■達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
	↓	↓				
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 科目によっては、超過した科目があるため予算計画の段階でより一層の暫定シーリングの作成が必要であると考え。					
次年度 見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	前年度の実績報告	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 予算額を超えないよう努める。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 予算額を超えないよう、執行状況を把握し各委員に情報提供した。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各学科、予算額を超えることなく予算執行されていた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度も計画通り執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			
項目[事案]	次年度の暫定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、下記の通り算定する。（当年度5月1日 現在の学生数を基に次年度の暫定予算額を算定。） 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当り納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 各委員に、会計課より暫定予算額を提示した。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各委員により、暫定予算内にて予算を提出していただいた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度も計画通り執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	倫理審査				委員会
大短委-2015-13			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		研究取扱規則第4条						
構 成	委員長	谷川弘治	副委員長	馬本鈴子	藤田稔子	構成員数		
	委 員	浅野嘉延	杉原好則	田川辰也	植田浩司			
							8	

委員会の役割に関する事項（概要）	■西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部の教授、准教授、講師、助教又は助手が中心となって行う人間を直接対象とした研究が、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（平成13年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、疫学研究に関する倫理指針（平成14年文部科学省・厚生労働省告示第2号）及び臨床研究に関する指針（平成15年厚生労働省告示第255号）に適合しているか否かを審査する。
------------------	--

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]に関する 事項	研究倫理の確立	研究倫理に関する講習会の開催		
	内部規則等の点検・見直し	関係規程等の制定及び改正	上程	大学評議会

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案]に 関する事項	研究の実施計画の適否の審議	人間を直接対象とした研究の適切性の審査	報告	学長
	情報公開	本学公式ウェブサイトへの情報の掲載		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部（以下「本学」という。）の教員（嘱託教授及び特任教授を含む。）又は助手が中心となっていく、人間を直接対象とした研究が適切に実施されるために、研究倫理への理解を深める。		
	↓	↓		
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■2015年7月30日に研究倫理に関する講習会を開催した。 ■産業医科大学医学概論教室 藤野昭宏教授を招聘し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（新倫理指針）～従来の臨床研究に関する倫理指針と比べて何が改訂されたのか？その主な重要ポイントの説明～」についてご講演いただいた。		
	↓	↓		
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■教員の受講状況を把握し受講者に対して「受講修了証」を発行することをとおして、本講習の重要性を認知させることができた。受講率は60.5%であり、研究倫理に対する理解を深めることができた。参加できなかった教員で科研費申請を行う場合は、いわゆるグリーンブックなどの通読を勧めるなど対応した。		
	↓	↓		
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■本学教員のニーズを踏まえて講習会を開催するなどして、引き続き研究倫理に対する理解と指針等に基づく行動の促進を図ることで、本学における研究活動の活性化を目指したい。CITI-Japanプログラムの導入を検討し、研修機会の拡大を図る。			
次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■研究取扱規則及び倫理審査委員会規程の改正、倫理審査委員会迅速審査細則及び研究不正防止に関する取扱指針（以下、新規定等）の変更の要点の周知を図る。これらを踏まえた倫理審査を行うことによる理解促進も重視したい。		

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	内部規則等の点検・見直し	決裁・意見・委託・上程の別	上程	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」の施行に伴い、関係規程等の制定・改正を行いたい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■研究取扱規則及び倫理審査委員会規程の改正案を作成した。倫理審査委員会迅速審査細則及び研究不正防止に関する取扱指針の制定案を作成した。 ■各案を大学評議会に上程し、大学評議会から学長に対する改正及び制定につき同意の意見を得た。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■省告示への対応を発端とするこのたびの関係規程等の制定・改正は、内部規則等の整備は達成した。一方、研究活動に関わる教職員が、省告示及び本学内部規則等の背景及び理念を理解し、教育研究活動に活かすという観点からは課題が残る。それゆえ「前進」との判断が妥当と考えた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2016年4月1日に施行される関係規程等について、学内及び学外関係者に周知徹底を図るとともに、申請者の立場及び審査者の立場の両面から、規程等の妥当性、解釈と運用における課題を発見し、対応していく必要がある。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■国内外の教育研究機関の取組みの状況、文部科学省や厚生労働省等の動静を意識しながら、法令遵守を大原則・大前提として、本学の組織文化や教育研究環境の独自性など、本学が有する「良い面」を引き出せていけるように、規程等の運用と解釈の在り方にも留意したい。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
↓	↓				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
■前進
□維持
□停滞
□後退

過程の
評価

□順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
■前進
□維持
□停滞
□後退

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 規程等に基づき研究の実施計画の適否を審査し、当該研究の各種指針等への適合を担保する。			
		↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■ 原則として月に1回委員会を開催し、学長に提出された倫理審査申請書等の内容について、指針等に基づいて、研究の実施計画の科学的合理性と倫理的適切性の観点から審査を行った。■ 通常審査に対しては、申請者に同席を求め必要な質疑及び助言・指導等を行った。			過程の評価 ■ 順調 □ 遅延 □ 未実施
		↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 委員会による審査に基づき、「承認」「条件付き承認」「変更の勧告」「不承認」「非該当」「その他」の結果を学長に報告した。 ■ 申請において申請書提出期限等への理解が不十分な例があった。			結果の評価 ■ 達成 □ 前進 □ 維持 □ 停滞 □ 後退
		↓				
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 新しい規程に基づき審査を行っていく。 ■ 申請者に対して申請書提出期限等の周知徹底を図りたい（研究活動の一環としての手続遵守）				
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■ 2016年4月1日施行の研究倫理に係る関係規程等のうち、委員会運営に関わる規定については、実際の委員会運営を通して運用と解釈の両面から確認を行っていく。				
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	研究の実施計画の適否の審議	決裁・意見・委託・上程の別	報告	学長	
	項目[事案]に係る規程上の根拠		倫理審査委員会規程			
	■ 定期的に委員会を開催し、申請が定期的に審査できる環境を整えた。					
	項目[事案]	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	■ 本学公式ウェブサイトにて「教育情報の公表」として「研究倫理」を設け、「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	動物実験				委員会
大短委-2015-14			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		動物実験規程第6条第2項、動物実験委員会規程						
構 成	委員長	谷川弘治	副委員長	尾上 均				構成員数
	委 員	谷川弘治	尾上 均		浅野嘉延		清末達人	
		田川辰也						5
委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	外部検証についての検討		基本指針に基づく外部検証についての検討			意見	学長	
	動物実験実施者に対する研修		基本指針・飼養保管基準に基づく教育訓練			決裁		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	動物実験計画の審査		2件の動物実験計画について承認			意見	学長	
	動物実験施設等の視察		委員会による動物実験施設等の視察			決裁		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	外部検証についての検討		決裁・意見・委託・上程の別		意見	学長	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針によれば、動物実験の実施体制等が基本指針に適合していることを自己点検・評価し、外部の者による検証に努めることが規定されているため、次年度以降に外部検証を受けることについて検討する。						
	↓	↓						
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■外部検証について検討を行うとともに、動物実験実施者を含む委員及び事務担当者に対して、外部検証についての理解を深めるための教育訓練を実施した。						
	↓	↓						
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■社会的な理解の下での動物実験の適正な実施とそれによる学術研究の発展のためには、検証プロセスの透明性と公平性が確保された外部検証が必要であることの共通認識が得られた。						
	↓	↓						
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■自己点検・評価から外部検証を受けるまでのプロセスを明確に示し、受審する。						
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■外部検証について、公私立大学実験動物施設協議会に申請し、受審する。						

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	動物実験実施者に対する研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■動物実験実施者等に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な基礎知識の修得を目的とした教育訓練、その他動物実験実施者等の資質向上を図るために必要な措置を講じる。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■国立大学動物実験施設協議会及び公私立大学実験動物施設協議会（公私動協）が実施する「動物実験に関する外部検証事業（第2期検証プログラム）」についての研修会を実施した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■動物実験実施者等は、外部検証の概要についての知識を得ることができた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■公私動協が開催する研修会に動物実験実施者等はできるだけ参加し、学内の関係者に研修で得た知識・技術を還元するめの研修を実施すること。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■動物実験実施者等に対し、引き続き教育訓練等を実施する。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

■達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

過程の
評価

□順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

□達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■動物実験責任者が申請した動物実験計画が動物実験等に関する法令及び機関内規程に適合しているかどうかの審査を実施し、その結果を学長に報告する。また、動物実験計画の実施の結果について、必要に応じ助言を行う。	
		↓		
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■動物実験計画について審査を行った。	
		↓		
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2件の動物実験計画を承認した。	
		↓		
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■公立大学実験動物施設協議会（公私動協）が提供する動物実験に関する最新の情報を適宜入手し、動物実験計画の適正な審査を行うこと。		
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。		

委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	動物実験施設等の視察	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠		動物実験委員会規程第2条		
	■動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況について、委員会による視察・点検を行った。 ■実験動物逸走防止の措置について確認し、改善について勧告した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	学生個人情報保護委員会				
大短委-2015-15			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第39条、学生個人情報保護規則第14条、学生個人情報保護委員会規程						
構 成	委員長	加來卯子	副委員長	平田健太郎		須藤秀夫		構成員数
	委 員	大塚和良	相良かおる	L. D. ウールブライト		笠修彰		
		八尋春海	伊東幸雄	岸名英海				10

委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正及び削除に関する事項、学生の個人情報に係る不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報保護に関する事項について審議する。						
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	個人情報の不適正な取得・利用事案に対する対策		再発防止策を検討		意見	大学評議会	
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		学生個人情報の不適正な取得・利用事案に対する対策	決裁・意見・委託・上程の別		意見	大学評議会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 非常勤講師による学生個人情報の不適正な取得・利用事案について、1）個人情報の取得方法の問題、2）個人情報の利用目的の問題、3）個人情報の廃棄・消去の問題を踏まえて再発防止策を検討する。					
		↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 国が定める法律やガイドラインのほか、他大学の規程や取組み等を参考に問題点を整理し、1）取得・廃棄の際に適切とされる具体的な取扱い例を紹介し、2）非常勤講師に対し、本学の取扱い規則等について書面及びHPにより周知を行い、3）教職員対象に保護措置に習熟させるための研修会の企画を検討した。					■順調 □遅延 □未実施 結果の 評価 □達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
		↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 専門部署がないなか、ようやく本学の学生個人情報の取扱いについて誰もが知り得る環境が整備され、手つかずであった非常勤講師への対応が行えたことは小さな前進であった。					
		↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度以降も継続的に、非常勤教員への文書による周知と、研修会の企画・実施を行うことにより、適正な学生個人情報の取扱いを徹底する。					
		↓					
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し 特になし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■国の定める法律やガイド ライン、学内規則に定める 取扱いに関する正しい理 解のもと、実のある審議 ができるようにしたい。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために 「誰が」「何を」「どのよ う」に行ったか ■担当部署において「個人 情報の保護に関する法律」 及び「文部科学省所管事 業分野における個人情報 保護に関するガイドライン」 を読み込み、他大学の先 進的・標準的な取組みを リサーチした■一から審 議するのではなく、審議 の土台となる原案を練り 、詳細な説明を補足して 委員の理解を深めながら 結論に導く手法を試みた			
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P) は達成・前進したか / 達 成・前進していない理由 は何か ■専門知識に欠けるため に手探りの状態で始まっ た審議の方向性が、回を 重ねるごとに明確になっ た■担当部署の習熟度は まだまだ十分とは言えな いが、以前より高まった			
	↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次 年度に行うべきこと / 行 うべきではないこと ■改正個人情報保護法の 全面施行に先立ち、関 連規則の改正や研修会 の企画等、必要となる 措置を検討する				
	次年度 見通し	次年度における計画（P） の修正・変更・廃止の見 通し 特になし				
委員会が取り扱った 項目[事案]のうち特に 状況等の記載を要する 事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別			
	項目[事案]に係る規程 上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別			
	項目[事案]に係る規程 上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別			
	項目[事案]に係る規程 上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別			
	項目[事案]に係る規程 上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上 程の別			
	項目[事案]に係る規程 上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	委員会名称	情報システム管理運用 委員会			
大短委-2015-16	大学・大学短期大学部	担当部局等	部局等	事務局	課	情報システム管理課
委員会設置の根拠（規程等）		情報システム管理運用委員会規程				
構 成	委員長	伊東 幸雄	副委員長	マルコム・ロス・スワンソン		構成員数
	委 員	浅野嘉延	岡田和敏	銀光	高橋幸夫	
		谷崎太	笠修彰	目野郁子	小川尚	10

委員会の役割に関する事項（概要）	■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項 ■ 情報セキュリティに関する事項 ■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項 ■ 情報処理に係る研修に関する事項 ■ ホームページに関する事項 ■ その他情報システムに関する事項						
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	年度重点項目[事案]に関する事項	■ 531マルチメディア語学教育演習室1 リプレース		アクティブ・ラーニングに適した教室にリプレースする		決裁	
		■ 211給食経営管理実習室LAN敷設		1-2-3号館無線LANの更新・拡張工事		決裁	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	■ 情報処理研修		新任教職員及び新入生に対する情報処理研修		決裁		
	■ 情報処理演習室延長開放		定期試験前の情報処理演習室開放時間の延長		決裁		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		531マルチメディア語学教育演習室リプレース	決裁・意見・委託・上程の別		決裁	
	P 計画		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 531マルチメディア語学教育演習室は、学内ネットワークに接続しないWindows98のPCとカセットテープ教材の利用を中心としたL.L.教室で、授業での利用が困難な状況であるため、新しくアクティブ・ラーニングを行う教室としてリプレースを実施したい。				
	↓						
	D 実施		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 531マルチメディア語学教育演習室の機器、什器を撤去し、可動式の机椅子、プロジェクターのスクリーンを兼ねた壁面ホワイトボード、電子黒板等を導入し、アクティブ・ラーニングの教室と位置付けた。 ■ 無線LANを設置し、同教室を学内ネットワークに接続した。				
	↓						
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 可動式の机椅子や大画面プロジェクター、壁面ホワイトボードなど自由度の高い設備が整い、様々な形態が予測されるアクティブ・ラーニングに柔軟に対応できる演習室となった。				
	↓						
	A 改善		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ リプレースされた教室で実施されるアクティブ・ラーニングの中で、機器、ネットワーク及び情報資源の利用状況を検証し、評価する必要がある。				
			次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■ 特になし				
	次年度見通し						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	211給食経営管理実習室ネットワーク敷設	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画	■211給食経営管理実習室リブレースに伴い、同演習室を学内ネットワークに接続したい。 ■現在2号館の学内ネットワークは、3号館屋上から無線LANで接続された生活創造学科準備室だけであるため、この無線機器のリブレースを兼ねたネットワーク敷設工事としたい。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■211給食経営管理実習室に屋外アンテナを擁した無線機器を新設し、その接続先として3号館屋上の無線機器、1号館及び2号館の無線機器のリブレースを実施した。 ■211給食経営管理実習室内には情報コンセントの設置に加え、無線LANの展開も行った。			■順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■211給食経営管理実習室が学内ネットワークに接続され、インターネットを活用した授業の展開が可能となった。 ■1-2-3号館の建物間ネットワークとして稼働していた老朽化した無線機器を入れ替えたことにより、障害リスクの軽減を図ることができた。			■達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■敷設したネットワークが教育用途に適っているか、授業での利用状況を確認し、検証する必要がある。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			☐ 達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。 ■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りたい。			
	↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよりよく利用できるよう、情報処理演習室のメンテナンス、開放時間の延長等を行った。			
	↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■発生した障害について、サービスの停止時間を極力短くするよう情報システム管理課によって適切な対応が行われた。 ■情報処理演習室は高い稼働率であり、特に延長開放については学生サービスの充実の一環として機能した。			
↓						
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■基幹ネットワークについて老朽化した機器の入替を行い、障害リスクの軽減を図る。 ■一部の学生から、さらなる情報処理演習室の開放時間の延長の要望が出されている。今後の利用状況、学科の意見等を参考にして、現在の開放時間が適切であるか検証する。				
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条				
	■新任教職員、新入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。 ■学内のネットワーク、情報処理演習室の利用に必要な事項について研修を行った。					
	項目[事案]	情報処理演習室の延長開放	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条				
	■情報処理演習室において、特に利用率の高まる定期試験前1ヵ月間、開放時間の延長を行った。 ■定期試験前の情報処理演習室については、例年通り高い利用率であり、延長開放は学生サービスの充実に繋がった。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・大学短期大学部	委員会名称	図書				委員会
大短委-2015-17			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		図書委員会規程						
構 成	委員長	甲斐達男	副委員長	林 裕二（前期） 馬本鈴子（後期）	命婦恭子		構成員数	
	委 員	村山由起子	木村茂喜	相良かおる		林 裕二（前期）		
		馬本鈴子（後期）	命婦恭子	甲斐達男		西川 忍	7	

委員会の役割に関する事項（概要）	■図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。				
年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定		決裁	
	図書館報編集・発行	図書館報編集・発行		決裁	
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案] に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2015年度図書館資料費予算の配分を実施。資料費総額を図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費学科別配分については、学科の特性を考慮し、公平な配分を行えるように検討する。			
	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■図書館資料費総額を、資料種別（図書費、新聞雑誌費、データベース利用料）に配分を行った。年度契約となる新聞雑誌費・データベース利用料を総額から減じ、残額を図書費に配分する。■図書費の学科別配分については、公平になるように配分率を検討し、予算配分を実施した。			
	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書館資料費の資料別配分では、2014年度に実施した2015年度以降の購読雑誌見直しの結果、図書費について前年度予算に比べて改善が見られた。			
	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■洋雑誌やデータベースはレートの変動や税制の変更にともない価格高騰が続いている。図書費に影響がでるため、更なる適正化を検討していく必要があるが、近年実施した数回の見直しで各科では洋雑誌のタイトル毎に必要性を検討し、購読中止をも実施してきたが、購読中止可能な雑誌にも限りがあるため、2016年度以降の予算措置を図書課において申請を行い認められた。			
次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■なし			

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	図書館報編集・発行	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館報の内容充実のため、第1回図書委員会で発行予定を示し、第2回図書委員会において編集方針を決め、発行作業を進める。				
	↓	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■第2回委員会において寄稿者を検討し、教員4名、学生3人、卒業生1名に依頼を行った。■図書館報「要」23号を2016年1月に発行し、配布を行った。				過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓				
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書館報「要」23号を発行について2014年度から発行回数を年1回としたため、時間的余裕ができ、校正等を十分に行うことが可能となった。■図書館において掲載図書 の展示を実施しているが借用される図書も多く図書館報が利用促進に繋がっている。				結果の 評価 □達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
	↓	↓				
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生が興味を持つ内容と成るよう、検討を進めて行く。 ■教員と連携し、更なる質の向上を目指す。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	↓	↓				
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				過程の 評価 □順調 □遅延 □未実施
	↓	↓				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				結果の 評価 □達成 □前進 □維持 □停滞 □後退	
↓	↓					
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館利用の促進を行うために、学科の教員へ図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況の周知を図る。 ■図書館蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。
		↓	
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ガイダンスの受講状況や学科別の貸出数などの学生利用実績を示し、学科での周知を図った。■学科教員へ図書の選定についての周知を行い、図書選定を進める。■除籍図書を確認・承認し蔵書の適正化を図る。
		↓	
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書館ガイダンスは教員への周知の結果、1年生対象とした依頼の増加となり、受講生数の増加となった。■図書の選定については新規に5名の教員が指定図書選定を行い、学生の利用促進に貢献した。■新規図書の選書促進とともに除籍すべき図書について確認・承認を実施し、蔵書の適正化に努めた。
	↓		
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学修支援のために図書館利用推進を進めるために、図書館ガイダンス受講を推進する。 ■図書館蔵書を充実させ、図書資料の利用促進を図るため、教員の選書を推進する	
			次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				